

平成 22 年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

—— 学校ボランティア運営に関する課題 ——

高橋 龍

東北大学学校ボランティア事務局副代表・東北大学教育学部

畠山 祥史

東北大学学校ボランティア事務局事務局員・東北大学教育学部

本報告は、2003（平成 15）年度より活動を続けている「東北大学学校ボランティア」（以下、学校ボランティア）の 2010（平成 22）年度の取り組みを報告するものである。昨年度までの報告を踏まえ、今年度は学校ボランティア運営に関する取り組みとその成果について報告する。

今年度は昨年度から始まった、学校ボランティア事務局（以下、事務局）の体制立て直しを受け継ぐ重要な年となった。今年は主要な事務局員の卒業と、新事務局員が入らなかったことにより、事務局機能の低下が懸念されたため、事務局の体制立て直しが一番の課題となった。事務局の体制立て直しを図りながら、同時に学校ボランティア事業の運営を行うことの難しさを痛感した 1 年であった。

1. 「学校ボランティア」概要

(1) 組織体制

「学校ボランティア」は、教育学研究科水原克敏教授を顧問とし、同研究室内に設置されている事務局によって運営されている。事務局は学生のボランティアによって組織され、現在局員数は 8 名（教育学部 7 名、文学部 1 名）である。2011（平成 23）年 2 月現在、学校ボランティアには 233 名の学生が登録しており、昨年同時期の 188 名と比べ 50 名近く増加している。下記の学校ボランティア登録学生学部構成表に、本年度と昨年度の登録学生の学部構成人数を示した。これを見ると、多様な学部・大学院の学生が登録している点は昨年度と違いはない。また、本年度では特に文学部や理学部などの学生の登録が増えていることが分かる。しかし、教育学部（教育学研究科含む）の学生が一定の割合を占め、理系学部の学生が少ない傾向は依然として残った。よって、広報活動の在り方についての昨年度以前からの課題を、本年度も克服できなかったと言える。事務局は事実上教育学部内に設置されているが、今後は積極的に他キャンパスでの広報活動を展開する必要がある。

昨年度末から本年度を通して、登録学生の在籍状況や所属の把握を試みた。その結果、本年度は昨年度に比べ、全体の登録学生数が増加したのに対して不明（表参照）人数が減少した。とはいえ、未だ所属が不明瞭である登録学生も多く、登録学生の把握は本年度でも課題として残った。

表：学校ボランティア登録学生学部構成表

学部	人数(人)		大学院	人数(人)	
	今年度	昨年度		今年度	昨年度
文学部	31	10	教育学研究科	6	3
教育学部	71	57	法学研究科	1	-
法学部	2	1	理学研究科	6	1
経済学部	4	3	農学研究科	1	1
工学部	6	4	生命科学研究科	2	-
理学部	15	8	情報科学研究科	1	3
農学部	6	1	環境科学研究科	2	2
医学部	2	2	その他研究科	-	4
学部合計	137	86	大学院合計	19	14
			不明	77	88

(※)今年度不明の内訳：所属(学籍番号、学部学年)不明者 36名、推定卒業生 41名

(2) 本年度の活動数と実際に活動した学生数

本年度は、依頼件数が101件（同一学校からの依頼でも、活動内容が異なる場合には別件扱い）であり、達成依頼数は20件であった。活動者数は34名で、昨年度から9名の増加となった。しかし、達成率は2割に届かず、昨年度の達成率の3割強（依頼件数46件、達成依頼数15件）を下回ってしまった。例年、活動学生の確保が課題として挙げられているが、本年度は、昨年より倍以上に増えた依頼の数に事務局が対応しきれなかった。

(3) 「学校ボランティア」および「事務局」の1年間の活動の流れ

月	活動
4	教職科目講義内学生募集（～5月）
5	学生への説明会（14日） 郡山小学校活動（6日） 各学校活動（～年度末）：東仙台中学校・八木山小学校・八幡小学校・通町小学校・南吉成小学校
6	郡山小学校活動（10日） 仙台市中学校特別支援学級卓球大会活動（12日）
7	長町中学校活動（29日～8月19日）
8	西山小学校活動（～年度末）
9	各学校活動（～年度末）：寺岡小学校・連坊小路小学校
10	片平丁小学校活動（～年度末） 鹿野小学校活動（15日）
11	郡山小学校（～年度末）
12	各学校活動（～年度末）：七郷中学校・榴岡小学校 第一高等学院仙台校活動（～年度末）
1	事務局員募集説明会（17～19日）
2	教育ネットワークセンター年報に事業報告書（本報告書）を執筆 活動報告会・感謝状贈呈式（18日・予定）

2. 平成 22 年度「学校ボランティア」活動報告

本節では、2010（平成 22）年度に行った学校ボランティア・事務局の活動を、活動者の声と共に報告する。

（1）教職科目講義内学生募集

【活動時期】 2010 年 4 月・5 月

【活動場所】 東北大学川内北キャンパス（教職原理 I ・教育学講義内）

【対象】 教職科目履修学生

【活動内容】 学校ボランティアの周知と新規学生ボランティア登録者の確保をねらいとして活動をしている。今年も、教職科目担当の先生のご協力のもと、教職科目の講義内において、5 分程の時間をいただき、学校ボランティアの概要説明と学校ボランティア登録カードの配布・回収を行った。教職科目に限定しているのは、教職に興味のある学生のほうが、学校ボランティアへの活動に興味を持ち、登録・活動に至る確率が高くなることを予測したためである。

【反省・課題】 今年度から、配布するビラに学校ボランティア登録カードを加えたが、問題なく導入することができた。短い時間の中でいかにして学校ボランティアの魅力を伝え、興味を持ってもらうか、説明内容をより精査していく必要がある。

（2）学生サポートスタッフ研修会

【活動時期】 2010 年 5 月 14 日

【活動場所】 東北大学川内南キャンパス文科系総合研究棟 306 教室

【対象】 学生

【活動内容】 学校ボランティアに興味を持ってくれた学生を対象に、仙台市教育委員会の先生方と事務局から、学校ボランティアの概要説明を行った。仙台市教育委員会の先生方には主に学生サポートスタッフ事業の概要や、保険等について説明していただいた。私たち事務局からは活動までの流れや、実際に活動経験のある事務局員が活動の様子などを学生に説明した。説明会に参加する学生は学校ボランティアに登録していない学生だけではなく、既に登録している学生も対象とした。今年も昨年と同様、研修会後に希望学生の学校ボランティアへの登録を行った。また、今年はそれに加え、事務局員の募集も行った。仙台市教育委員会の先生方から学生に対して正式な説明を行っていただくことで、学生の学校ボランティアへの理解を深め、学校ボランティアと事務局への信頼性の確保につながっていると考えられる。

【反省・課題】 今年は仙台市教育委員会の先生方からの説明に加え、事務局からの説明や、活動経験者が体験談を話すことにより、学校ボランティアに対するイメージを学生が

抱きやすくなったと思われる。今後も、研修会に参加する学生がどのような情報を知りたいのかを把握し、研修会の内容を充実させていくことが重要である。

(3) 仙台市教育委員会からの学校ボランティア依頼

① 仙台市立通町小学校

【活動時期】 2010年5月～2011年3月 毎週月曜日

【活動者】 2名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 相談室登校が出来ている不登校の児童の話し相手（相談室内での活動：パズル、ジェンガ、トランプ、けん玉／図書室での活動／まれに学級に行く機会があるのでその付き添い）。不登校児童が来なかった場合は他学級に入っでの学習支援。

【活動者の意見・感想】 最初はどうしたらいいかわからず悩んだ時期もありましたが、続けていくうちになんとなくのペースがつかめたような気がします。先生方に暖かく迎えて頂き、頻りに顔を出していた学級では休み時間も児童との関わりが出来るようになりました。未だ思うところがありますが、良い経験になったと納得しています。

【事務局担当者の反省・課題】 通町小での活動者からは、ボランティア活動の様子について時々聞くことができた。その度に、事務局として常日頃から活動の状況を把握し活動者をサポートしきれていないことを感じた。その問題を克服するためには、さらに活動者とボランティアについて話をする機会を増やすだけでなく、事務局と小学校との関係を密にし、情報を共有する必要があると思った。（畠山祥史）

② 仙台市立八木山小学校

【活動時期】 2010年5月～2011年3月 毎週火曜日

【活動者】 1名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 四年生の授業補助が基本であったが、後期からは特別支援学級の方にも少し関わらせていただいていた。

【活動者の意見・感想】 昨年に引き続きの活動で、昨年度と同じ児童たちを担当できたことが本当によかった。来年度もぜひやりたいと思う。

【事務局担当者の反省・課題】 昨年度に引き続き参加していただき、児童にとっても、活動者にとってもいい経験になったと思う。ぜひ来年度も今年の実験を生かして参加していただきたい。今年は連絡調整や交通費の面で負担をかけてしまったので、事務局員一丸となって改善していきたいと思う。（佐藤隆亮）

③仙台市中学校教育研究会特別支援教育部会

【活動時期】 2010 年 6 月 12 日

【活動者】 2 名

【活動場所】 若林体育館（仙台市中学校特別支援学級卓球大会）

【活動内容】 仙台市内特別支援学級に所属する生徒の卓球大会の審判

【活動者の意見・感想】 生徒一人ひとりの一生懸命さがすごく伝わってきて、とても緊張しながら審判を務めさせていただきました。大変充実した一日を過ごすことができました。もともと卓球部だったので、機会があれば卓球の指導などもしてみたいなと感じました。

【事務局担当者の反省・課題】 この活動は、一校の単発ボランティアとは違った感じで、初めてこのような活動の募集を担当した。宮城野中学校の担当の先生に何度か連絡をとり、活動内容に関する資料を事務局に郵送していただいたりしてお世話になった。（畠山祥史）

④仙台市立長町中学校

【活動時期】 2010 年 7 月 29 日、7 月 30 日、8 月 2 日、8 月 10 日、8 月 11 日、8 月 12 日、8 月 18 日、8 月 19 日

【活動者】 1 名

【活動場所】 同中学校内

【活動内容】 自習室を使って学習する生徒への学習支援、主に夏休みのワークを進めに来る生徒の支援が多かったです。

【活動者の意見・感想】 初日の最初 30 分くらいは、生徒と互いに自己紹介し、「わからないところがあったら聞きに来てね」とサポートスタッフ席にいたが、様子を見にいらしたボランティア受け入れ担当の先生が「どれ、今日は何やるの？社会？資料集持ってきた？」など積極的に生徒に関わっているのを見て、自分の専門科目以外でも様子を積極的に見るようになりました。数学の宿題をしにきた 1 年生の女の子たちが、正負の数の計算の仕方がわからなくて苦戦していましたが、丁寧にやり方を説明して、一問ずつ確認していったら、「あ、わかったかも!!」と言って明るい顔でワークを進めるようになっていたのが嬉しかったです。部活動（吹奏楽）の指導補助にも入らせていただきました。県大会では、結果が銀賞と発表されたとき、奏者としての悔しさとは違った、指導者・顧問の立場の気持ちも味わうことができ、教師になったとき、自分は生徒たちにどう声をかけるだろう、と考えさせられました。

【事務局担当者の反省・課題】 まとまった期間での活動だったこともあり、市教委から支給されたスキップカードが活用されたのが良かった。反省点は、活動期間中に全く活動者と連絡を取らなかったこと。今後改善していきたい。（鈴木園子）

⑤仙台市立連坊小路小学校

【活動時期】 2010年9月～2011年3月 毎週金曜日

【活動者】 1名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 1年生3クラスを1週間ごとにまわり、担任の先生の補助をさせていただきました。授業進度についていけない児童の指導、授業に集中できていない児童の指導が主でした。5時間目の授業の補助、掃除指導、下校指導を行いました。

【活動者の意見・感想】 1週間に1度、それも毎回違うクラスを担当していましたが、子どもたちが思った以上になついてきてくれ、とても嬉しく思いました。また、子どもの純粋な心に、こちらの心が洗われるようでした。やむをえず何度か子どもたちを叱ったこともありましたが、それでも頼ってくれたり、慕ってくれ、こちらの愛情をちゃんと感じ取ってくれているのだと感激したことも幾度もありました。当初は、担任の先生方のお邪魔になっているのでは、と戸惑っていましたが、回を重ねるごとに自分の役割がつかめるようになり、非常に充実したボランティアを行うことができました。とても貴重な経験ができました。このような機会を与えてくださった事務局の方々にこの場をお借りして感謝致します。どうもありがとうございました。

【事務局担当者の反省・課題】 連坊小路小の活動者へは活動期間中ほとんど様子を伺うことができず、事務局としてもっときちんと学生のサポートをしなければいけなかったと思う。活動者にある面は任せつつしっかりサポートするというのは今後の課題である。(畠山祥史)

⑥仙台市立寺岡小学校

【活動期間】 2010年9月～2011年3月 毎週金曜日

【活動者】 1名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 ALTによる英語の授業の補佐。ALTと小学校の先生方との打ち合わせの通訳。

【活動者の意見・感想】 先生方との打ち合わせに基づいて、ALTが授業案を作ってきてくれます。主に簡単な文法説明や、ALTとモデル会話をします。日本以外の国で教育を受けたALTの授業の進め方はやはり日本人の先生とは異なり、私も教員を目指しているので、とても勉強になりました。

【事務局担当者の反省・課題】 本件は事前に活動者が決定していたために、スムーズに活動を始めることができたが、その分事務局と活動者の関わりが少なかった。このような学生でも連絡をこまめにとり、活動者の状況を把握することが必要であると感じた。(高橋龍)

⑦仙台市立片平丁小学校

【活動期間】 2010 年 10 月～2011 年 3 月 毎週水、木曜日

【活動者】 1 名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 授業中や休み時間に児童を見守り、児童間のトラブル（いさかい、怪我等）を防止する。

【活動者の意見・感想】 ボランティアを始めて 3 ヶ月が経ち、当初はトラブルの多かった児童も最近落ち着いてきて少しは役に立っているのかなと思います。また授業や児童への指導の仕方を観察できることも勉強になり、この体験は将来必ず役に立つものだと思います。

【事務局担当者の反省・課題】 片平丁小の活動者はとてもしっかりした方だったので、活動期間中、全てをお任せしてしまった。時々体験談などをお聞きすればよかったと思う。（畠山祥史）

⑧仙台市立榴岡小学校

【活動期間】 2010 年 12 月～2011 年 3 月

【活動者】 2 名

【活動場所】 同小学校内

【活動内容】 各学級に配属され、授業やテストの時につまづいている子どものサポートをしました。宿題の添削・教材コピーの手伝い・その日の担当ではない学年の特別授業の見学をさせていただくこともあります。

【活動者の意見・感想】 校長先生のご意向により、ある学年にずっと入るのではなく、毎回別の学年に入るので、より多くの子どもたちと関わることができています。また、特別授業は担当学年に関わらず「今後、教員になった時の参考に」ということで見学させていただけます。とてもいい経験をさせていただいていると感じています。先生方は忙しいので、教室の様子を私一人で見とくように頼まれることもあります（短時間ですが）ので、ボランティアという立場ですが責任を持って取り組もうと感じました。もう少し頑張りたい点は、どの学年の子どもにも積極的に話しかけて、たくさんの子どもたちと関わることです。

【事務局担当者の反省・課題】 榴岡小学校へは同時に 2 名の方が申し込んでくれた。面識のない二人なので、予め顔合わせをしていただいたほうが今後スムーズに行くのではないかと考えたが、結局一人ずつ事務局員と顔合わせをさせていただいた。このような場合の対応も、きちんと決めておけばよかったなと思った。（畠山祥史）

⑨仙台市立七郷中学校

【活動期間】 2010年12月7日～2011年3月 主に毎週火曜日

【活動者】 1名

【活動場所】 同中学校内

【活動内容】 中学1、2年生の理科の授業におけるティーチング・アシスタントです。机間指導や演示実験のお手伝いなどが主な活動内容です。

【活動者の意見・感想】 七郷中学校で教育実習を行った先輩を通じて、この学校が理科の授業のサポートスタッフを募集していることを知りました。私は高校の理科教員を目指していることもあり、実際の学校現場を肌で感じるには良い機会であると考え、志願しました。塾講師などの経験もなく、「先生」と呼ばれるのは初めての経験でした。実際にそう呼ばれると、恥ずかしさや嬉しさの反面、責任の重さをひしひしと感じました。生徒たちに授業に興味を持ってもらえるようにするのは非常に難しく、単に「理科離れ」の一言では言い表せないような興味・関心の低さを日々感じています。本当に大変な活動ですが、これからも引き続き挑戦していきたいと考えています。

【事務局担当者の反省・課題】 ⑥の事例と同様、本件も依頼学校と活動者の間で内諾があったため、活動をスムーズに始めることができた。活動者との連絡をこまめにとり、事務局と学生の信頼関係を構築することが必要である。(高橋龍)

(4) 宮城県教育委員会主催「地域学習支援センター」事業

【活動時期】 2010年7月末～8月

【活動者】 18名

【活動場所】 会場となる宮城県内の12個の高等学校

【活動内容】 「地域学習支援センター」事業は、小中学校の夏季休業中に宮城県教育委員会が主催している学習支援活動事業である。県内の大学生が小・中学生の勉強を補助している。事務局では昨年に引き続き、ポスターでの募集やメールでの呼びかけ、学生の活動申し込みの補助を行った。

【反省・課題】 今年も昨年同様、学生個人が宮城県教育委員会に直接申し込むことができるようにした。それにより活動までの流れが簡素化されたため、事務局の負担が軽減された。昨年課題であった参加人数の把握も、県教委から最終的な参加人数を伝えていただくことで解決した。これからの課題としては、活動参加人数の増加が挙げられる。今後は、ホームページでの広報や講義内周知、ポスターの掲示位置の改善など、広報活動に力を入れる予定である。

(5) 第一高等学院仙台校からの学校ボランティア依頼

【活動時期】 2010年12月～2011年3月

【活動者】 2名

【活動場所】 第一高等学院仙台校

【活動内容】 同校に通う生徒に対する個別学習指導

【事務局の活動内容】 仙台校の担当の先生との顔合わせ、ボランティア保険の加入手続きに関する把握、メール及びHPでの募集、活動希望者2名との顔合わせ、ボランティア保険加入手続き代行、仙台校担当の先生への学生情報連絡

【事務局担当者の反省・課題】 現在活動している事務局員にとって、市教委・県教委からの依頼以外のボランティアを受け持つ初めての機会となった。7月頃に依頼を受けたが、仙台校の担当の先生との話し合い、ボランティア保険の手続きについての確認などのため、実際に登録学生に対し当該依頼について募集をかけることができたのは10月であった。今後、今回のように新たなルートから依頼を受けた場合には、よりスムーズで的確な対応が望まれる。また、市教委・県教委からの依頼とは区別して活動者を募集しながらも、どちらの活動の魅力も伝えられる募集のかけ方を検討したい。これらの課題はあるが、事務局が、活動の依頼引き受けから手続きまで一連の流れを構成できたことはとても意義のあることであった。

3. 平成 22 年度「事務局」活動報告

本節では、平成 22 年度事務局が取り組んだ特徴的な活動を報告する。

(1) 本年度の課題

本年度の課題は、昨年度に引き続き事務局の立て直し及び依頼達成率の向上にあった。現在の事務局体制で特に問題となっているのが、①事務局員の不足、②事務局内部の関係性の希薄化、③事務局と活動学生や依頼学校との関係の希薄化である。

まず①についてであるが、現在事務局員として活動している8名のうち、7名が3年生以上であり、来年度以降の運営を考えると非常に危機的な状態にある。

次に②について、事務局員が集うのは毎週もしくは隔週に行われるミーティングのときのみで、その際に振り分けられた活動は、各自が自分の都合の良い時間に行う。これは全員が一緒に活動をする時間の予定を合わせることで困難なためである。しかし、ミーティングでは各自の活動の確認を行うのみで、完全に情報共有が図れているとは言えない。また、話し合いをする時間も十分ではなかった。

③については、本年度から活動前に学生と事務局員との顔合わせを行うようにした。しかし実際の活動が開始して以降、事務局員が活動学生の活動状況や様子を把握できていないのが現状であった。また、事務局と学校との連絡がほとんどなされず、情報共有が行われなかったことも課題である。

これらの問題点を踏まえ、本年度は、学校ボランティアの運営についてだけでなく、事

事務局そのものの運営についての課題の解決にも着手した。現在、全学教育の SLA サポート室と連携し、協力をいただきながら立て直しを図っている。その計画の枠組みは、①事務局員募集方法の検討、②ボランティア参加者募集方法の改善であり、以下の取り組みが進行中である。

(2) 取り組み①—事務局員募集方法の検討

前述のような事務局員の学年構成により、新事務局員の補充が組織存続の上で不可欠になった。本年度は4月からの講義内周知や5月の説明会で事務局員を募集したが、加入した1年生は1名のみであった。これまでの募集の反省点として、学校ボランティア登録者と同時に事務局員を募集しており、学生が学校ボランティアの登録のみに留まってしまったことが挙げられる。そこで、本年度後期から、事務局員を重点的に募集することとした。

まず、事務局について説明したビラを作成し、1月に事務局に関する説明会を行った。説明会は、学部1・2年生が来やすいように、川内北キャンパスで行った。そして、3日間の2時間ずつ、数名の事務局員がそこに待機しているようにした。結果、1名の学生が事務局員を希望してくれた。

現在、より多くの学生、特に新1年生を事務局に募集するための計画を立てている。そこで、来年度初めの募集を、学校ボランティアの登録を対象にするのではなく、事務局員募集に絞って行うこととした。来年度の4・5月は事務局員募集及びその育成に重点を置く。その際、現在活動している事務局員も合わせ、関係性の向上を目指すことが期待される。現在は4月に向けて準備を整えている段階である。

(3) 取り組み②—ボランティア参加者募集方法の改善

本年度は、昨年度の依頼達成率3割を省み、また、依頼件数が非常に増加したことを踏まえて、より多くの学生にボランティアに対して興味を持ってもらうための対策を行った。

まず、昨年度に着手したHP復旧作業を完了させ、本年度5月からHPで活動者を募集することが可能となった。これにより募集の質が格段に向上したと言える。メールによる募集とHPでの募集では活動内容の詳細に差異はほとんどないが、HPではこれまでの依頼を全て読み直すことができる。年度途中でも随時学校ボランティアへの新規登録者がいるので、HPでの募集は効率的な募集方法となった。

また、SLAサポート室前の掲示板に学校ボランティア用のスペースをいただき、そこでも依頼を掲示できるようにした。この募集方法の有効な点は、学校ボランティアに登録していない学生でもその依頼を見ることができることである。これは、学校ボランティア登録者に対してのみの募集となっていた従来の募集方法と大きく異なる。加えて、活動への参加には学校ボランティアへの登録が必要なため、より多くの学生に学校ボランティアを知ってもらえる場となっている。

4. 終わりに

本年度の事務局の活動における最大の特徴は、SLA サポート室との連携である。これにより、ボランティア依頼の募集の幅が広がったことが、本年度の成果と言える。一方で、事務局員募集など、取り組みが始まっているものの、来年度への持ち越しとなっている計画もある。さらに、事務局員の意識向上や、活動学生との関係改善・支援体制改善など、昨年度課題として掲げられた問題については未だ解決に至っておらず、今年度もそれらが課題として残った。これらの問題の改善には時間を要すると思われ、新事務局員を募集し育成することが現段階での最大の課題である。しかし、その中で、それらの根本的な問題の解決にも着手し、今後の学校ボランティアの発展を図っていきたい。